

高田さん
お仕事
がんばる！！

遠田さん
けやきで楽しく
元気にがんばる！！

祝

広瀬さん
痩せたい！

石橋さん
はるかの作業を
頑張る

篠原さん
畑を
がんばります！

岡田さん
運転免許を取って
クルマを運転したい！

ごお新
ざめ成
いで人
ますう

2025年2月14日発行（毎月12回2・4・6・8の日）
1994年8月24日 第三種郵便物承認

通巻 第5593号

発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会
川口市芝新町15の9 頒価 50円
郵便振替 001000811223

編集後記

4月に広報委員会のメンバーが一新され、新たなメンバーと喧々譁々な議論を行ない、より良い通信を作り上げることに邁進してきました。今年度はいかがだったでしょうか？今後とも読者の皆様に愛される通信でありたく存じます。皆様からのおたよりが我々のはげみになりますので、ご意見・ご要望等、お待ちしております。（はるか 堀辺 欽也）

～ そよ風のように街に出よう～

S S T L

つくばね通信



社会福祉法人つくばね会
代表 千葉県我孫子市都部新田37-2

TEL 04-7187-1944

FAX 04-7187-1947

HP <http://tukubanekai.sakura.ne.jp/>

編集・発行：けやき社会センター・はるか
おおぼん・ふれんず・楓・サポートセンターけやき

子どもの頃、買ってもらったほとんどの物は分解、中を確認してはまた元に戻す、その際に壊してしまった時は何とかして組み立てる。そんな癖がありました。

まあ、親に怒られるのですが、どうしても構造が気になって、あーなるほど、と感心しながら、この部品がこっちを押して、バネの力でこうなって、と内部の動きを頭で「趣味レーション（シミュレーション）」するのです。そうすると、大抵のものはこんな構造かな？と想像できたり、修理出来たりする事があります。ただ、当時から苦手なのが電子部品、基盤など。学ぶ機会もなかったため動きが目に見えない物は信じられない！と、までは思いませんが、デジタル的なものはどうも苦手。

しかし現在、身の回りの物は殆どがデジタル機器。しばらく経ちますが福祉の世界にも人材不足のなか福祉のDX化、IoTやICTの活用で業務効率化が求められています。

事務的な部分で言えば勤怠管理やシフト管理、クラウドサービスなどで事業所でも活用されているものもありますね。介護業界では介護ロボットという言葉聞いたことがあると思いますが、ロボットといってもその定義は・情報を感知・判断・動作すると定義されるため人型、と言うわけではないのですが、そんな直接支援する技術も進んでいます。障害の分野ではどんな場面が考えられるでしょう、例えば入浴や排泄、見守り、金銭管理など、またはご本人の気持ちや意思を表現し伝える技術などでしょうか。

当事者に寄り添った技術で支援者側も効率化し、結果として支援者による支援の質の向上と繋がりたいですね。まずはキャッシュレス決済を使って金銭管理をスマートに出来ないかを考えている、スマホの狙ったところを上手く押せない時がある廣瀬でした。（GH管理者 廣瀬 晋）

～ 第2回 そよ風フェスタ 開催のお知らせ～

2025年4月26日 09:30～14:00 千葉県我孫子市南新木3-12 南新木沖田公園

第2回開催決定！ 昨年は、多数の法人様、来てくださった皆様のご協力もあり、大変好評で終える事ができました！

現在、鋭意準備中ですので、是非ともご来場のほどよろしくお願いたします。

詳しくはQRコードをご覧ください！

そよ風フェスタ実行委員



身体拘束、虐待防止研修に行ってきました

令和6年11月22日に、千葉県知的障害者福祉協会主催の非常勤支援職員対象の研修に行ってきました。研修内容は身体拘束、虐待防止のための支援のポイントについてです。社会福祉法人フラット理事長の林晃弘先生による講演を拝聴後、グループワークにて身体拘束、虐待について意見を出し合いました。

まず講師の先生が問われたのは、私たちが普段、普通にしていることや尊重されていることを利用者さんはできていますか？でした。名前も顔も知らない人から急に馴れ馴れしく話かけられたらどう思いますか？自分の荷物を他人が勝手に開けたらどう感じますか？好きに食べている物に対して横からいろいろ言われたら嫌じゃないですか？虐待はこのような些細な権利侵害から、後に大きな虐待に繋がっていくんですよと教示され、ついやってしまいがちな支援の数々にドキッとしました。

グループワークでは、他事業所のお母さん支援員さんから、我が子をセンターに迎えに行った時の話が出ました。スタッフさんから自分の子どもが呼び捨てにされていることに大変心が痛んだそうです。センターの方はそれが当たり前になっており誰一人その違和感に気づいていないのも悲しいし腹立たしいと。以後自分は子どもを尊重したいと普段の生活から我が子を「さん」をつけて呼ぶようにしているし職場でも気をつけているとお話をして下さいました。「本人の意に反しての呼び捨て」は虐待に当たります。こうした行為を防ぐには、日常の支援を振り返り「この対応大丈夫？」といった支援のグレーゾーンを職員同士で話をすることが大事だと先生はおっしゃっていました。

今回の研修に参加し、あらためて自身の支援の仕方や権利擁護について考える良い機会となりました。福祉に携わる人間として、「人が人として生きることを支援する」ことを第一義に、「共に生きる」とはどのような意味なのかを心に留めて、おひとりおひとりに合わせた支援を行っていきたいと思いました。

（けやき社会センター 太田 まどか）

福祉職員になったきっかけ

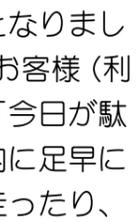
私は現在43歳、社会人として働き始め、約20年になります。

若さや、根性なしの情けない部分もあり、私は今まで様々な職種に携わって参りました。野菜売場の店員、おもちゃ屋さん勤務、ファストフード店の店員、成田空港職員、フォークリフトの運転手、大工さん等々……。これらの異なる職種であっても、ある共通点がありました。それは『数字と常に隣り合わせである』という事です。売上やノルマ、時間や集客数等、毎日がせわしく、常に何かに追いかけている日々でした。

そのような日々を脱却したく無知で未経験な私は、福祉に携わらせて頂く事となりました。運営していく上では数字は今も欠かせない部分ではありますが、それよりもお客様（利用者の皆様）と接する時間の多さが今までの職種と比べると格段に増えた事や「今日が駄目なら明日またやり直そう。」や「また明日、今日の続きをやろう。」と1日の内に足早に完結しなければいけなかった前職と違い『人生を利用者の方と共に歩いたり、走ったり、立ち止まったり……。』という福祉の魅力に魅入られました。

異業種からの転職でありましたが、今も法人の職員や利用者の方に支えて頂きながら、元気に仕事に取り組むことが出来ています。これまでの知識や経験を活かしながら、つくばね会をさらに盛り上げることが出来るよう、引き続き精進して参ります。

（はるか 林 裕記）



さわやか芸能発表会に参加してみた

昨年12月に第33回さわやか芸能発表会にけやきの皆で観覧してきました。さわやか芸能発表会は千葉県知的障害者福祉協会が主催している芸能発表の場で、今回33回目と歴史ある行事です。

今回のテーマは「豊かな暮らしを追求する」。文化活動を通して表現する喜びを持ち、その活動の中で自己実現の可能性を共に追求し、理解を広げ、施設を超えて交流を深めるとなっており、今回始めて観覧させていただきましたが、この日のためにダンスや作品を長い時間をかけて作り出したと思うと何度も感動させられました。

また小さい頃から親交のある方が堂々とステージで踊っており、立派に成長した姿を見てまた涙が、、、。多くの方が自信を持って表現している姿を見ることができ、とてもいい行事でした。今回は観覧で参加させて頂きましたが、いつか、けやき社会センターとして皆でダンスや作品などで参加できればいいなど感じさせられました。



一緒に観覧した皆も音楽が流れると立ち上がり、その場で踊り出す姿や「楽しかった！また行きたい！」と、参加したことを喜んでくださり、また参加してあの感動をもう一度皆で分かち合いたいと思います。

今回のテーマ「豊かな暮らしを追求する」を考えた時に、喜びや達成感、日々の練習の努力などお金では買えない価値のある「豊かさ」と感じました。今後も豊かさを追求する気持ちを忘れず日々向き合っていきたいと思っています。

（けやき社会センター 長瀬 俊広）

私たちなりの恩返しを

はるかが新木駅前に引っ越して、約1年半になります。日頃からお世話になっている地域の皆様への感謝の気持ちを込めて、はるか（B型）では週に1回程度、周辺地域へのゴミ拾いをさせて頂いております。

活動範囲としてははるかの周りや、駅の周りが中心でトングとゴミ袋片手に、数人1チームで行っております。落ちていたゴミの種類や量も様々で、煙草の吸殻や、ペットボトルや缶のゴミ等、1回でゴミ袋半分ほどのゴミが拾えることもあります。

利用者さん自身もとても積極的に参加されており、「ここにゴミが沢山落ちているよ！皆で拾おう！」「その植え込みの下に細かいゴミがありそう！もっと見てみようよ」等、それぞれに声を掛け合いながら笑顔で取り組まれております。また清掃道具の使い方を学べたり、「ここは駅前で人も多いから少し静かにやろう」といったTPOに合わせた対応を学べたり、活動させていただいている私たちにとってもプラスになっていることも非常に多いように思います。何よりも実際に周りの住民の方から「有難う、綺麗になるね。頑張ってるね」と声をかけて頂くことも増え、大変励みになっております。

今後もこういった活動を通して、私たちが今出来るせめてもの恩返しとして、お世話になっている町を少しでも綺麗にしていけたらと思っています。皆さまも、はるかの利用者さんを見かけたら気軽にお声掛け頂けたら嬉しいです。

（はるか 植原 大輔）



グループホーム地球 旅行報告

コロナ禍以来、本当に久しぶりの宿泊での旅行に行ってきました。皆さんから事前にアンケートを取り、今回は6名の入居者の方と、職員2名で千葉の君津に行きました。

1日目はまず袖ヶ浦市の農産物直売所「Tasso の森」にて昼食、卵かけごはん食べ放題セットでお腹パンパン。その後ドイツ村へ。当日はとてもいい天気でしたが平日だからか人も少なく、ほぼ貸切状態で、広大な敷地内で動物を見たり、乗り物に乗ったりしました。散策中、ステージを見つけると入居者のお二人がステージに上がってダンスを披露。思わず皆笑顔になり、普段は見せない素敵な一面を見ることができました。お土産を買い、東京ドイツ村を後にして木更津のアウトレットに寄り、その後大江戸温泉君津の森に到着。皆さんが今回の旅行で一番楽しみにしていた夕食バイキング。おいしい料理がたくさんあり、それぞれ好きなものを好きなだけ食べて、そのあと大浴場も満喫できました。

2日目は恋人の聖地「中の島大橋」を観光し初見神社を参拝。道の駅にも寄り、昼食を食べて地球に帰宅しました。帰ってくるとすぐに、入居者の方から「楽しかった、来年も行きましょう」と言ってくれました。よく食べて笑顔の2日間でした。

(グループホーム地球 樋口 恵理子)



楓の移動支援（ガイドヘルパー）は楽しい！

ガイドの仕事では、本当に色々な場所に行くことができます。上野動物園では、70分行列に並んでパンダを見ました。パンダなんて何年ぶり？子どもが小さい時に、その時はガラス越しの狭い舎だったけど、今は新しい「西園パンダのもり」で動き回るパンダ達を近くで見ることができ、写真もたくさん撮れました。その他にもゴリラやシロクマもゆっくり見ることができました。天気の良い日のお台場では、フジテレビの球体展望台に登り、富士山や都心のビル群がきれいに見えました。お台場観光もでき、レインボーブリッジも歩いて渡りました。

ガイドとして本人の特性？（趣味嗜好・体力・社会性等々）を見ながら本人にとって、その日が楽しい一日になるように一生懸命考えます。



本人がお楽しみの昼食も希望を確認しながら、せっかく東京に来たのだから我孫子にないものはどうですか？とスマホで検索し、提案します。それでも本人が「マクドナルド」が食べたいとなれば、それは本人の希望に従います。

ガイドの知識と経験を活かしながら、本人の希望を尊重し、その方の豊かな人生の充実した余暇の一助になれる外出は、ガイドも楽しい外出です。

(つくばね会本部 どこでも行く課の志賀)

関東社会就労センター協議会～研究大会 in 埼玉～に参加して

去る10/21～22川越で開催された研修大会に参加してきました。

1日目の研修では基調講演や行政説明(福祉施策の同行)、パネルディスカッション(インクルーシブな働き方を考える)や実践報告(就労支援における「公助」を改めて問う)等、様々な埼玉県における障害福祉の状況や取り組みを学ぶ時間となりました。大会司会は利用者本人が務め、堂々と時に臨機応変に長時間の進行をされている姿は頼もしく、大会を準備してきた皆さんの温かい思いを感じました。

私が埼玉大会に参加した一番の目的は2日目に開催予定の「第4いもの子作業所」と「特別養護老人ホームななふく苑」への施設見学でした。おおばんでは畑で毎年たくさんのさつまいもを作っていますがその加工技術(干し芋づくり)を学ぶことと、高齢障害者が暮らす特養はどのような施設なのかを知り、つくばね会が抱える高齢障害者への問題に活かせることを見つけたい思いからです。

いもの子作業所の干し芋への設備投資は高額で現時点で手の届くものではありませんでしたが製造工程はとても勉強になりましたし、ななふく苑では一緒に働いてきた仲間同士が暮らす笑顔あふれる暮らしを見ることが出来、感動を覚え、つくばね会でも共に働いてきた仲間と暮らせる介護施設を作ることが出来ないかという思いが強く沸き上がりました。

障害高齢者に特化した特養は法律の壁に阻まれる問題も度々生じ、その度に行政と話し合いながらクリアしてきたことも多くあると施設長からのお話がありましたが、私も臆さず利用者のために必要なことについてはしっかりとした意志を持って関係者と協議できるスキルを身に着けたいと感じました。

(おおばん 栗原 千鶴)

☆ふれんず活動の様子☆

冬休みにクリスマス会を楽しんでいたと思っていたら、早いもので3月・・・卒業の時期になりました。

今年は、5名の生徒がふれんずを卒業する事になります。私が異動になった年に高校1年生になった方々です。4月からは成人の事業所での新たな生活がスタートすると思うと、心配な気持ちと期待する気持ちとが入り混じる複雑な心境です。良い職員さんに出会える事を願っております。

さて、長年ふれんずの課題となっていた手狭な活動スペースとバリアフリーではない玄関やトイレ等が解消されるチャンスをいただきました。苦勞して前管理者が物件探しやリフォームの設計業者等の調整まで忙しいなか、尽力してくれました。

12月から解体工事が始まり、すぐにリフォーム工事に入りました。凶面と現場を見比べ、なかなかイメージが湧かない中、壁紙や床材、外壁の色を決めなければならず、苦戦しました。2月末に完成をし、3月中に書類の申請や引っ越しを済ませ、4月からリニューアルオープンの予定となっております。

新たな場所は、活動スペースは現在の約2倍近い広さ、個室トイレや多目的トイレも新調し、放デイの子ども達も日中一時の利用の方々もゆったりとした空間で思い思いに過ごせると思います。見学会も開きたいと考えておりますので、その際には是非足を運んで下さい。

ふれんずは「進藤さんが土を耕し、長瀬さんが種を植え、今花を咲かせようとしているふれんず・・・その花を咲かせ続ける事が私の使命」だと思っています。職員一丸となり支援して行きます。

(ふれんず 栗原 大介)

-相模原障がい者殺傷事件より-

「今日も皆と共に生きていくために…」

2016年7月26日に神奈川県相模原市の津久井やまゆり園で起きた殺人事件から歳月が経過しましたが、あらためて犠牲となった皆さんに哀悼の意を表したいと思います。この事件は、抵抗する術のない重度の障害のある人を標的にした大量殺人であり、植松死刑囚の身勝手な犯行は断じて許されることではないことをまず申し上げてから書き始めたいと思います。

まず、この事件を起こした植松死刑囚は、「何もできない者、歩きながら排尿・排便を漏す者、穴に指をつっこみ糞で遊ぶ者。奇声をあげて走りまわる者、いきなり暴れ出す者、自分を殴りつけて両目を潰してしまった者」など具体的なケースを本人の手記で列挙しており、「彼らが不幸の元である確信をもつことができました」と主張し、また、「自分が何者であるかもわからず、意思疎通がとれないような障害者は、生きていても社会に迷惑をかけるだけであるので、殺害してもよい」という持論を展開しました。これらは津久井やまゆり園で職員として働く中で、このような「思想」を持つに至ったというのです。更に、裁判の中で「仕事は見ていただけ、暴れたら押さえるだけ。そんな中でこの人たちに生きる価値があるのかと思った」という彼の証言もあります。

今回私と同じ立場で働いていた元職員である植松死刑囚が「施設で働いてから考えが変わった」ということに着目し、彼がどのように施設で働き、そのような価値観の形成に至ったのかという背景要因を知りたいと思うと同時に専門職である援助者の価値観と支援との関係性について考えたいと思います。なぜならば、常に支援の裏側には援助者自身の認知に関わらず自身の価値観（支援観）が反映され密接な関係があると考えるからです。また、人が発する何気ない一言もその言葉はその人の価値観のフィルターを通してから発せられると考えるからです。人は「世の中」色とりどりなものであふれる社会において様々な物事に価値を見出すことが当たり前であり、それらが世の中そして人の心の中で絶妙なほど良いバランスを保つことで調和し何事もない平穏が保たれているのが日常だと考えますと、そのバランスが崩れた時に世の中或いは人の心の中の普遍的な社会的価値観さえも大きく変容させる可能性があるかもしれません。

さて、援助者の価値観に基づき良いと思った支援が利用者にとって良い支援になるとは必ずしも限りませんし、何より良い支援だと決めるのは利用者自身であります。正しい支援はこれであるやこれが唯一正解の支援だと援助者は決めつけてはならないでしょう。利用者にとっても援助者にとっても様々な人の関わりは必要不可欠であり、一援助者の関わりで支援を行おうとすることに限界があるのも事実だと思います。だからこそ、各々の様々な価値観（人生観）を広げ他者をより理解し想像する力と必要な専門知識を身に付け現場での経験値を増やすことで形成される唯一無二の支援力（実力）を高めることは援助者でいる限りどこまでも追及しなければならぬと私は考えております。

最後に、この事件が社会に大きな影響を与えたことは間違いない事実であることから、一人でも多くの援助者が出来る限り公開されている情報にアクセスし向き合い考えることが大切だと思っています。その時に利用者本位の支援、人権が尊重される命が大切に守られ利用者にとって安心安全な場所の提供、施設側が職員に求める利用者支援の在り方、対人援助の専門職として人材育成などなど多岐に渡り色々と考えてみましょう。その中でも私は地域の中核を担うつくばね会も法人として施設のあり方を考え、職員の意識を育てると共に誰もが安心安全で幸せに暮らせる地域社会の実現に向けやるべきことをやり、また障害の有無に関わらず誰もが「今と共に生きる」かけがえのない一員であることを当たり前とした社会に近づくために法人職員として今まで以上に大きな役割と責務を担っていくことを自覚し、元同じ職員だった人間が起こしたこの事件を考えていかなければならないと思っています。

（おおばん 吉田 将人）

スポレク運動会について

12月7日（土）、例年のない暖かい師走の晴れの日の午後、千葉県立湖北特別支援学校の体育館をお借りして市内障害者支援施設6事業所から障がいのある方52名が集い、赤白チーム、3事業所ずつに分かれスポレク運動会を開催しました。コロナ禍で数年できなかったため、久々の開催となりました。プログラムは「玉入れ、綱引き、〇×クイズ、リレー」の4種目。

玉入れでは、ポールの上にある綱に入れるものとカゴをしょって走り回るスタッフのカゴに入れるものと2種類の方法で2回行いました。皆さんとても上手で赤白チームとも200個近い玉を入れたため、カウントする司会者が大変でした。

綱引きも、2回行いました。皆一生懸命に綱を引き、勝っても負けても皆さん晴れ晴れとした表情をされていました。



〇×クイズでは我孫子市にまつわるクイズを出題。皆さん真剣に問題を聞き、悩みながらも〇と×に分かれ、当たった時には飛び跳ねて喜ぶ方もいました。

最終種目のリレーでは、赤白チーム6事業所の代表の中からそれぞれ8人が選ばれ、100m近い円周を半周走りました。真剣な眼差しで走る姿にそれぞれのチームの声援も最高潮に！とても盛り上がりました。プログラムとしては4種目でしたが、2時間があっという間に過ぎていきました。

今回、スポレク運動会を担当したのは社会福祉法人つくばね会（けやき社会センター、はるか）が主担当となり、準備を進めてきましたが、当日、参加された皆様の笑顔と真剣な眼差し、喜び、盛り上がりを見ると今までの準備の苦労が報われる思いでした。

最後に、スポレク運動会にお手伝いをしていただいた各福祉施設職員の皆様、貴重なお休みの日にお手伝いいただき有難うございました。また今回、玉入れと赤白の玉、綱引き用の綱を我孫子市立湖北小学校からお借りし、玉入れ用のカゴは我孫子市立湖北中学校からお借りすることができました。そして千葉県立湖北特別支援学校から体育館とカラーコーンなど備品を快くお借りすることができたことは感謝しかありません。この場をお借りして御礼申し上げます。

是非、次年度も我孫子市内福祉施設に通所される障がいのある方が参加しやすいスポレクの企画を考えていきたいと思っています。

（はるか 舟山 和希 ・ けやき社会センター 小嶋 史樹）

